

現状、先行きとも 全産業で「上昇」超

財務部



県内企業の景況感



～大蔵省景気予測調査結果から～

財務部が平成12年5月に県内の資本金1千万円以上の法人企業(金融・保険を除く)を対象に実施した大蔵省景気予測調査結果の概要を紹介します。

▼景況判断

現状(十二年度四～六月期)では製造業で「下降」超に転じているものの、ウェイトの高い非製造業で「上昇」超幅が拡大していることから、全産業では「上昇」超幅が拡大している。

先行きについては、十二年度七～九月期は非製造業で「上昇」超幅が拡大するほか、製造業で再び「上昇」超に転じることから、全産業では「上昇」超幅が拡大する見通しとなっている。

十二年度十～十二月期は非製造業で「上昇」超幅が縮小するものの、製造業で「上昇」超幅が拡大することから、全産業では引き続き「上昇」超で推移する見通しとなっている。

▼売上高

十二年度上期は製造業、非製造業とも増収とみており、全産業では一七%の増収見込みとなっている。

十二年度下期は製造業、非製造業とも増収とみており、全産業では三九%の増収見通しとなっている。この結果、十二年度通期は全産業では三三%の増収見通しとなっている。

▼経常損益

十二年度上期は製造業、非製造業とも増益とみていることから、全産業では二・五%の増益見込みとなっている。

十二年度下期は、製造業で増益とみているほか、非製造業で大幅な増益とみていることから、全産業では一八・九%の大幅な増益見通しとなっている。

この結果、十二年度通期は全産業では三三八%の増益見通しとなっている。

▼従業員数

現状では製造業で「過剰気味」超幅が拡大しているものの、ウェイトの高い非製造業で「不足気味」超幅が拡大していることから、全産業では「不足気味」超幅が拡大している。

先行きについては、製造業で「過剰気味」超幅が拡大し、非製造業で「不足気味」超幅が縮小することから、全産業では「不足気味」超から「過剰気味」超に転じる見通しとなっている。

▼所定外労働時間

現状では、中小企業で「減少」超となっているものの、大企業、中堅企業では「増加」超幅が拡大している。

先行きについては、大企業、中堅企業とも「増加」超で推移した後、「減少」超に転じる見通しとなっている。中小企業では「減少」超で推移する見通しとなっている。

▼金融機関の融資態度

現状では大企業で「ゆるやか」超で推移し、中堅企業で「ゆるやか」超幅が拡大しているほか、中小企業では「ゆるやか」超に転じている。

先行きについては、いずれの規模でも「ゆるやか」超で推移する見通しとなっている。

▼資金繰り

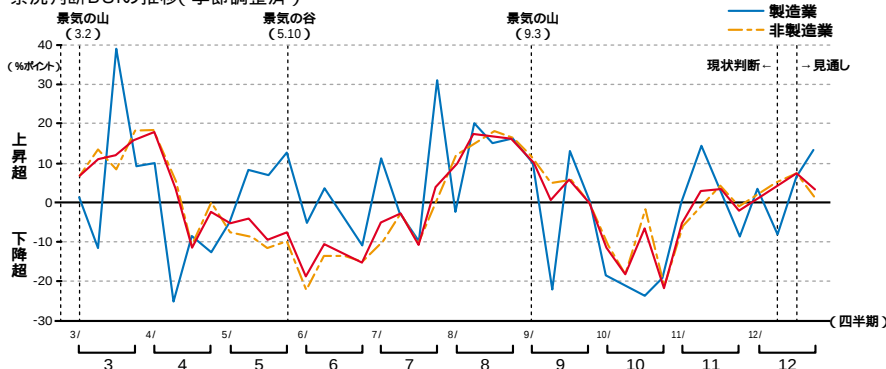
現状では、中小企業で「悪化」超で推移しているものの、大企業、中堅企業では「改善」超で推移している。

先行きについては大企業で「悪化」超に転じ、中小企業では「悪化」超で推移する見通しとなっているものの、中堅企業では「改善」超で推移する見通しとなっている。

▼中期的な経営課題

中期的な経営課題についてみると、全産業では、国内販売体制、営業力の強化を挙げる企業が最も多く、次いで、企業実態に即した雇用、人事、給与システムの確立、後継者、人材確保育成の順となっている。

景況判断BSIの推移(季節調整済)



*景気の山、景気の谷は全国ベース
BSIとは・・・景気動向指数(ビジネス・サーベイ・インデックス)をいい、見方は次のとおりです。
BSI=(「上昇」等と回答した企業の構成比-「下降」等と回答した企業の構成比)